

平成 16 年 2 月 12 日

各 位

会 社 名 澁 谷 工 業 株 式 会 社  
代 表 者 名 取 締 役 社 長 澁 谷 弘 利  
( コード番号 6340 東証、名証第 1 部 )  
問 合 せ 先 取 締 役 吉 道 義 明  
( TEL(076) - 262 - 1201 )

平成 16 年 6 月期(中間期)業績予想との差異および(通期)業績予想の修正のお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 15 年 8 月 20 日の決算発表時に公表した平成 16 年 6 月期中間(平成 15 年 7 月 1 日~平成 15 年 12 月 31 日)および平成 16 年 6 月期(平成 15 年 7 月 1 日~平成 16 年 6 月 30 日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1 . 平成 16 年 6 月期中間業績予想数値との差異(平成 15 年 7 月 1 日~平成 15 年 12 月 31 日)  
(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	1 6 , 2 0 0	2 8 0	2 8 0
今 回 修 正 予 想 ( B )	1 5 , 6 0 4	3 6 0	2 2 5
増 減 額 ( B - A )	5 9 5	8 0	5 4
増 減 率 ( % )	3 . 7	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 15 年 6 月期中間)	1 6 , 0 6 2	3 4 1	2 7 4

2 . 平成 16 年 6 月期中間連結業績予想数値との差異(平成 15 年 7 月 1 日~平成 15 年 12 月 31 日)  
(単位:百万円、%)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前 回 発 表 予 想 ( A )	1 9 , 5 0 0	2 3 0	3 0 0
今 回 修 正 予 想 ( B )	1 7 , 8 3 0	3 3 5	2 2 8
増 減 額 ( B - A )	1 , 6 6 9	1 0 5	7 1
増 減 率 ( % )	8 . 6	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 15 年 6 月期中間)	1 6 , 6 0 0	3 8 7	3 3 9

3. 平成 16 年 6 月期通期業績予想数値の修正 (平成 15 年 7 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)  
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	39,500	1,200	480
今回修正予想(B)	38,000	550	210
増減額(B-A)	1,500	650	270
増減率(%)	3.8	54.2	56.3
(ご参考) 前期実績(平成 15 年 6 月期)	38,581	883	97

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 5円81銭

4. 平成 16 年 6 月期連結通期業績予想数値の修正 (平成 15 年 7 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)  
(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	46,000	1,650	530
今回修正予想(B)	43,500	300	60
増減額(B-A)	2,500	1,350	470
増減率(%)	5.4	81.8	88.7
(ご参考) 前期実績(平成 15 年 6 月期)	40,083	1,268	75

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 0円09銭

5. 修正の理由

<中間期>

単体の業績につきましては、パッケージングプラント事業において、飲料用プラントの一部の案件で納期が下期にずれ込んだこと、およびメカトロシステム事業において、半導体業界の生産高が回復していることから半導体製造装置の設備投資が急速に伸びるものと見込んでおりましたが、同業界の組織再編等があり設備投資の決定が遅れ気味に推移したため受注が下期にずれ込み始めたこと、および切断システムにおいて新製品が伸び悩んだことから、売上高は 15,604 百万円と期初予想に比べ 3.7%減少しました。

利益面では、コスト削減に努力したものの、経常損失は 360 百万円と期初予想に比べ 80 百万円損失幅が拡大しましたが、投資有価証券売却益および関係会社に対する債務保証損失引当金戻入の特別利益が発生した結果、中間純損失は 225 百万円と期初予想に比べ 54 百万円損失幅が縮小しました。

連結の業績につきましては、単体の業績における理由のほか、新たに当中間期に連結対象となった石井工業株式会社の業績落ち込みがあり、売上高は 17,830 百万円と期初予想に比べ 8.6%減少し、また経常損失は 335 百万円と期初予想に比べ 105 百万円損失幅が拡大しましたが、中間純損失は 228 百万円と期初予想に比べ 71 百万円損失幅が縮小しました。

< 通期 >

当社は、総じて輸出ウェイトが低く、国内マーケットの縮小による受注競争の激化の影響を受け、期初予想を下回ることとなりました。

単体の業績につきましては、パッケージングプラント事業において、期初に見込んでいた食品用プラントおよび製薬設備プラントの一部で、客先の投資が翌期以降に先送りとなったことから、売上高は 38,000 百万円と期初予想に比べ 3.8%減少すると見込まれ、一方利益面では、受注価格の低下に対応してコスト削減努力に傾注するものの、経常利益は 550 百万円、当期純利益は 210 百万円と期初予想に比べそれぞれ 54.2%、56.3%の減益と見込んでおります。

連結の業績につきましては、単体の業績における理由のほか、石井工業株式会社において、販売市場が従来西日本中心であったことから、東日本市場の足がかりとすべく戦略的な販売価額で受注した不採算の案件が下期に売上計上されるため業績が更に低迷し、売上高は 43,500 百万円、経常利益は 300 百万円、当期純利益は 60 百万円と見込んでおります。

以 上